

野村萬齋 狂言の世界

◆解説 野村萬齋

◆小舞 中村修一

◆七つ子 高野和憲

◆狂言 太郎冠者 野村裕基

◆狂言 親鬼 野村萬齋

— 休憩二十分 —

鎮西八郎為朝

主 次郎冠者 飯田博治

後見 月崎晴夫

地謡

月崎晴夫 野村太郎 内藤連 岡聡史



主 野村太郎 内藤連 高野和憲 深田博治 中村修一 岡聡史

後見 飯田豪

<あらすじ>

棒縛(ぼうしばり)

二人の家来が、留守番中に酒蔵の酒を盗み飲んでいると知った主人は、太郎冠者を棒に、次郎冠者を後ろ手に縛って出かけてしまう。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについて成功する。酔った二人が謡えや舞えやと大騒ぎしていると…。自由の利かない手で酒蔵の戸を開けたり、舞を舞ったりと、遊び心に裏付けられた自由さがある作品です。観ているこちらも心楽しくなれる、狂言の代表作の一つです。

首引(くびびき)

播磨の印南野を通りかかった鎮西八郎為朝の前に鬼が現れる。娘の姫鬼に人の食い初めをさせたいという鬼に、為朝は、姫と勝負して負けたら食われようと提案する。親鬼は恥ずかしがる姫を説得して腕押し・すね押しをさせるが、豪傑無双の為朝にはかなわない。苦戦する我が子に気が気でない親鬼は、ある策を思いつき…。源為朝は源頼朝や義経の叔父にあたり、保元の乱の活躍で高名な武将です。豪胆な英雄に対し、可憐な姫鬼を華麗かつ懸命に応援する親鬼。人以上に子煩悩な鬼の姿に、思わず顔がほころびます。さて、この勝負の行方は？



【関連企画】伝統芸能講座 『狂言っておもしろい！道具からみる狂言の魅力』
講師に伝統芸能の「道具」に携わる裏方や職人を支援する活動「伝統芸能の道具ラボ」
主宰の田村民子さんをお迎えし、お道具や衣装という切り口から、狂言の魅力に迫ります！
7月23日(日)14時～15時30分(開場13時30分) 秩父宮記念市民会館 けやきフォーラム
講師：田村民子(伝統芸能の道具ラボ 主宰) 参加費：500円
※申込方法等の詳細は、市報ちちぶ6月号または、市民会館ホームページをご確認ください。

【感染症対策のご案内】

秩父宮記念市民会館では、新型コロナウイルス感染拡大予防の対策を行い、公演を実施いたします。今後の感染状況によっては、公演内容に変更が生じる場合がございます。予めご了承ください。

<お問い合わせ>

秩父宮記念市民会館
The Prince Chichibu Memorial Civic Hall

〒368-8686 埼玉県秩父市熊木町8-15
TEL：0494-24-6000 (9時～18時 火曜日休館)
<https://ccbhall.saitama.jp/>

アクセス▶

電車でお越しの場合
■西武鉄道 西武秩父駅から徒歩5分
■秩父鉄道 御花畑駅から徒歩3分 秩父駅から徒歩15分

車の駐車台数には限りがあります。公共交通機関のご利用や、徒歩、自転車等でのご来場にご協力ください。

